

鬼北町立広見中学校

道徳通信

道徳主任 酒井 智有

NO. 74

令和8年6月24日発行

よりよく生きる

人権学習の紹介（2年生）西光万吉の生き方から学ぶ

2年生は、水平社宣言について学習しています。授業では、西光万吉の生き方から学ぶという学習を行いました。それでは、2年生が学習した西光万吉さんとは、どのような人物か、また、水平社宣言とはどのようなものだったのか、簡単に紹介いたします。

西光万吉（さいこう まんきち）

本名：清原一隆 生年：1895年 没年：1970年 出身：奈良県

西光万吉は、被差別部落の解放運動（部落解放運動）において中心的な役割を果たしました。特に重要なのは：全国水平社の創立（1922年）です。

全国水平社は、京都で結成された日本初の本格的な部落解放団体で、西光万吉は「水平社宣言」の起草者、運動理念の中心人物でした。

この宣言は、日本の人権思想史でも非常に重要で、「人の世に熱あれ、人間に光あれ」という有名な言葉を含みます。水平社宣言のポイントは大きく3つです。

① 「外からの救済」ではなく「自分たちの解放」

それまでの差別問題は、政府や同情的な人物による「改良」的対応が中心でした。しかし水平社宣言は、他者に救ってもらうのではなく、被差別者自身が立ち上がるという主体性の宣言でした。

② 差別への怒りと人間の尊厳

宣言では、長年の差別に対する強い怒りとともに、人間としての平等、尊厳の回復が強く訴えられます。

③ 「人間の光」という理念

もっとも象徴的な一節がこれです。「人の世に熱あれ、人間に光あれ」この言葉は、日本の人権思想を象徴するフレーズとして有名です。

西光万吉は単なる参加者ではなく、宣言の主要な起草者、思想的中心人物の一人、表現や象徴（荊冠旗など）にも関与した中心人物でした。

水平社宣言は日本史の中で特に重要で、

- 日本初の本格的な人権宣言の一つ
- 被差別民自身による自己解放宣言
- その後の部落解放運動の原点 として位置づけられています。



授業後の生徒の感想を紹介します。

- 私は、これからの社会が差別のない自由な社会になるために、1人1人が平等であることを大切にし、心から願うことが必要だと思いました。また、自分だけが願うのではなく、お互いを思いやる気持ちをみんなが持つことも大切だと思いました。